

<基本姿勢>

子どもを誉める → 子どもが自信を持つ → 子どもが主体的になる

【確かな学力】

◎高め合う学習集団づくり

- ・一人一人が大切にされる学級集団をつくる
- ・学びの約束やルールを身につけさせる

◎普通の授業の充実（問題解決的な学習や探究活動）

- ・学習課題を提示し、その実現のために発達の段階に応じて設定した記録・要約・説明・論述・発表・討論等の言語活動を経て、学習課題に応じた「まとめ・振り返り」を行うことを徹底する
- ・めあて・目標・流れを明確にし、45分間で、まとめ・振り返りまで確実に行う
- ・授業の中に子どもが発表したり、表現したりする場面を増やすことで、言語活動の充実を図る
- ・教材研究の充実（板書計画・教材準備・予備実験等）を図る
- ・高学年において、一部教科担任制を導入する
- ・積極的な授業公開（一人一授業以上の公開）を行う

○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と定着

- ・図書館指導や読書指導を充実させ、本に触れる機会を増やす
- ・ドリルやプリントなどを活用して、反復練習による学力の定着を図る
- ・放課後の個別指導に取り組む
- ・個に応じた家庭学習を工夫する

○カリキュラムマネジメントの工夫

- ・総合的な学習の時間を軸に、内容を精選し、カリキュラムマネジメントの視点を持って指導方法を工夫する
- ・地域の伝統、歴史、文化に触れる機会を増やす

○プログラミング教育の推進

- ・各学年で、プログラミングの手法を用いた授業の工夫をする

○英語力の育成

- ・英語科・英語活動の指導の工夫を図る
- ・指導の仕方を研究し、支部等へ発信する

◎LD等支援が必要な子どもの学力向上

- ・個々の子どもの課題をとらえ、その子の特性や教科等の特質に応じた支援による学力向上を図る

○小中一貫教育の推進

- ・全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラム、プレジョイントプログラムを通して、中学校との学習の連携を図る

【豊かな心】

○道徳教育の充実

- ・各時間のねらいを明確にした効果的な指導法を工夫する

○伝統や文化の担い手であることを実感できる授業の工夫

- ・総合的な学習の時間の地域学習を中心にする
- ・茶道教室を実施し、伝統文化の担い手であることを実感できるようにする

◎規範意識の育成

- ・あいさつを励行する
- ・学習規律を徹底する
- ・基本的生活習慣の確立させる
- ・ルールや法の重要性を自覚できる取組を推進する
- ・自他の大切さを認め、相手の思いや立場を想像できる人権意識を高める取組を行う
- ・一人一人の心の居場所づくりを心がける

○多様性を理解する姿勢

- ・一人一人、みんな違いがあってよいということを道徳などの授業の場面だけでなく、学校生活すべての場面で意識して指導する

○支え合い、高め合う集団作り

- ・子どもたちの自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高める取組の工夫をする
- ・不登校状態の子どもに寄り添った取組を行う
- ・子どもの言動に対して、教職員が常にアンテナを張って見守り、子どもの変化や子ども同士の関係の変化、さらにいじめの兆候を早期に発見し、迅速にかつ適切に対応する

【健やかな体】

○健康な体づくり

- ・体育科、特別活動（行事・クラブ活動など）を中心に体づくりを行う
- ・部活動や朝ランニングを通して、体力をつける

○保健教育の充実

- ・保健教育（生活習慣・性教育など）の充実を図る
- ・飲酒，喫煙，薬物乱用等の危険性を正しく理解させ，実際の行動に結びつくよう指導をする

○安全教育の充実

- ・地域と連携した安全・防災意識を高める活動に取り組む
- ・避難訓練を定期的実施し，自分の身は自分で守ることができるように意識を高める

○食に関する指導の充実

- ・望ましい食習慣を育むための給食指導と食に関する指導の丁寧に行う
- ・食物アレルギー・アナフェラキシーに対する正しい知識に基づいた適切な対応がとれるような研修を実施する

地域との連携について

○社会に開かれたカリキュラムづくり

- ・「学校運営協議会」を基盤にした連携を進める
- ・P T A，図書ボランティア，社会福祉協議会等を活用し，学校として連携する
- ・生活科，総合的な学習の時間を中心とした地域を活用した学習の推進を図る
- ・情報の発信（HPや学校だより等）を図る

教育環境の向上について

○普段から子どもの細かなトラブルを見逃さない（いじめ・不登校・問題行動等）

○教師一人で抱え込まないで，必ず連絡・相談する

○安心・安全な学校施設，環境の整備を図る

○校内環境美化の推進

- ・ごみの分別，さらに削減
- ・清掃の徹底
- ・整理整頓

○効果的な予算執行（無駄を省き，必要なところに手厚くあてる）

○教職員が身近な教育環境であるという自覚を持つ

- ・丁寧な言語環境（子どもの呼び方，言葉遣い）を意識する
- ・子どもの見本となる行動をとる
- ・地域や保護者に対して丁寧な対応をする